現代観光の社会学的研究

Nara Women's University

人文科学系・人文社会学領域　**寺岡　伸悟**　教授　TERAOKA Shingo　博士(文学)(京都大学)

■研究キーワード　観光社会学,観光経営(観光まちづくり),文化学,地域メディア論,食文化論

■主な所属学会　日本観光研究学会,日本村落研究学会,観光学術学会,関西社会学会,日本社会学会,関西観光教育コンソーシアム

■研究者総覧　https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.934a4ad26353e6b9520e17560c007669.html

研究者総覧

研究概要

私の研究は以下のようなものです。

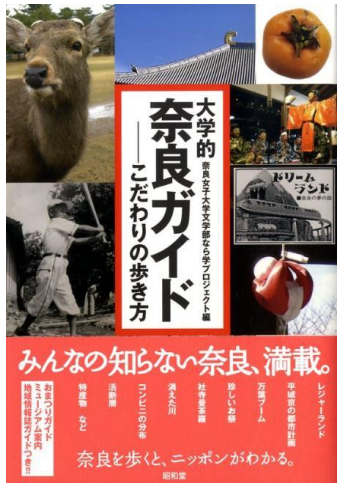
・観光社会学的な視点から現代社会の観光現象について考察する。

・メディアと文化の視点から、現代社会の特徴について考察する。

・地域社会学の視点から地域づくりについて考察する。

・なら学の視点から、奈良の特徴や歴史を学際的に研究する。

・質的調査の方法論について研究考察する。



アピールポイント

私の研究は一見多岐にわたり、雑多な印象を与えるかもしれません。しかし、その関心の核心やアプローチの方法は共通しています。

具体的には、つねに、フィールドワークや一次資料などに即して、そこから考え、現場や資料と対話しながら、その解釈を進めていくことです。

その際、既存の理論や概念を現実に当てはめて後付的な説明をほどこすことを避け、むしろそれが現実のダイナミズムや個別なものが個人にいまもたらしていることの意味を軽視しないように、主観的な世界を大切に取り組んでいきます。

一方、マクロな現実や社会構造なども客観的な統計などのデータによって踏まえ、独りよがりな解釈にならないよう、また今の幸福を求めることが将来の厄災へとつながることがないよう、つねに、自分の解釈を反省する姿勢を保つように自戒しています。

私が本学で世話役をしてきた「なら学」プロジェクトのしごとはまさにその最たるものかと思われます(左の出版物)。

またそれにとどまらず、奈良県の小規模自治体での地域の現状把握とそのデータの目的をもった利活用の道筋やその方法を住民目線、自治体目線、また企業目線にそれぞれ翻訳して伝えていくことの経験を積み重ねてきています。アピールポイントとしてはこうした地に足のついた学術知の生成と、それをカスタマイズ・翻訳し、わかりやすく提供することにあるかと思います。したがって、持続可能な観光振興を行いたい方、地域の振興と地域文化の発展を両立させる道筋を探りたいと思っておられる方などと共同していくことができるかとおもっています。